大人が絵本を

第93回 絵本編集者の手腕

司書・読書アドバイザー　安藤　宣子※
小児歯科医師　濱野　良彦※※
※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ（福岡市）
※※ 医療法人元気が湧く　理事ファウンダー

伝える演説

ロシアに侵攻されたウクライナのゼレンスキー大統領が、侵攻から28日目の3月23日、日本の国会で国会議員と日本国民に向けて行ったオンライン演説は、皆さま注視されたことでしょう。

演説の後半で述べられた日本の昔話のくだりは、本に携わる仕事をしている私の心に深く響きました。ゼレンスキー氏が2019年、大統領に就任してから半年後に、オレーナ夫人が参加した活動についてです。すなわち、視力に障害のある子どもたちに向けてオーディオブックをつくるプロジェクトで、日本の昔話をウクライナ語で朗読したというエピソードです。

日本でウクライナ民話『てぶくろ』や、ロシアの昔話『おおきなかぶ』が愛されているように、日本の昔話がウクライナの子どもたちに受け入れられていることを知り、まるで隣人のような親しみを感じたのです。大統領夫人が朗読したという日本の昔話を調べてみましたら『ももたろう』と、新美南吉作『二ひきのかえる』でした。

ゼレンスキー大統領は夫人の活動を紹介して、「両国の間に長い距離があっても、私たちはよく似た価値観を持っています。そのような距離など、実際は存在しないのです。なぜなら私たちはお互いに温かい心を持っているからです」と説いたのです[1)]。世界は多種多様な民族性をもつ国々で構成されていますが、絵本によって自他国の文化を理解し、想像力を豊かにすることで子どもたちの未来の平和を築こうという根底は変わりないのです。

『二ひきのかえる』は昭和10年、日本が戦争に向かっていたころ、21歳の新美南吉青年が書いた「なかなおり」がテーマの童話です。すべてを語らなかったゼレンスキー大統領の心が見えてくるようでした。

『二ひきのかえる』
新美南吉 作
しまだ・しほ 絵
（理論社）

「編集職人」を知っていますか？

オレーナ夫人がウクライナの子どもたちのために朗読した日本の昔話『ももたろう』は、ロシアの昔話『おおきなかぶ』の再話者人数以上に、多くの作家が絵本にしています。再話者・画家の異なる『ももたろう』がたくさんある中で、もっとも力強く表現された決定版は福音館書店の絵本でしょう。再話者は、初版が発行された1965年に福音館書店の編集者であった松居 直氏です。リズムよく生き生きとした日本語で語られる『ももたろう』に、赤羽末吉氏の画が相まって昔話の力を演出しているのです。

松居 直氏といえば、絵本作家であり、児童文学評論家としてその名を轟かせています。そのふたつの顔に尊敬の念を抱いてやまないのですが、もうひとつ「編集者」として戦後日本の児童文学界を飛躍的に切り拓き、現在の絵本文化を構築された偉業に平服するばかりです。松居氏ご自身は、自らを「編集職人」と呼んでいます[2)]。

松居氏は、児童書出版社の大手である福音館書店の創業に参画したひとりで、編集者として国内外の児童文学界に残した功績は数知れません。ロシアに伝わる昔話『おおきなかぶ』の日本語版編集に当たって、再話者・内田莉莎子氏と画家・佐藤忠良氏の引き合わせが、初出から60年、世代を超えて読み

手にするときは！

に驚くなかれ！

企画　濱野　良彦
構成　木須　信生※※※
※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ（福岡市）

継がれている要因の一端でしょう。

あれもこれも松居 直氏なのです

世界の民話・昔話に留まらず、松居氏が各国の優れたお話を日本に紹介したその数々は、いずれもロングセラー絵本となって刷を重ねています。

オランダのブルーナ氏が描く代表作「うさこちゃん」（本国名ナインチェ・プラウス（英語名ミッフィー））の版権をとり、日本に届けたのも松居氏です。

お隣の韓国で1988年、はじめての創作絵本となった『山になった巨人：白頭山ものがたり』もしかりです。日本語版の製作に当たり、原画から新規に製版を行うなど、より原画の魅力に近づくよう努力を惜しまない松居氏の編集者魂が注ぎ込まれているのです[3]。

モンゴルの『スーホの白い馬』は、新人の赤羽末吉氏がはじめての絵本『かさじぞう』を出版したときに、二作目の絵本にモンゴルを舞台にしたお話を希望したことにはじまります。松居氏は、大塚勇三氏に相談してモンゴルの昔話『馬頭琴』の原文を短く整理してもらい完成したのです[4]。

『スーホの白い馬』
大塚勇三 再話
赤羽末吉 絵
（福音館書店）

しかし、完成した初版ではモンゴルの大草原の広大なイメージを伝えられず、松居氏は編集者として自身の企画の失敗を感じます。この体験が松居氏の魂に火をつけ、絵本づくりの根本的な発想にめざめるのです。そして、現在私たちが手にしている横長大判の迫力ある『スーホの白い馬』が誕生するのです[4]。

みんなの愛読書「こどものとも」生みの親

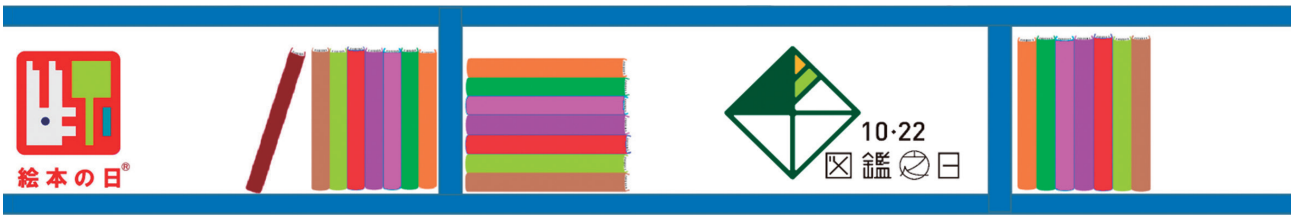
松居氏の編集職人のスタートは、現在に続く月刊誌「母の友」です。福音館書店が、前身の金沢福音館を引き継いで1952年に創立された翌年の1953年９月、松居氏が編集長として創刊するのです。誌面で、「子どもに聞かせる一日一話」を連載し、当時、企画にも流通にも未開拓の領域を残していた絵本の分野への進出を目指します[5]。

そして、「母の友」創刊からわずか２年後の1956年４月、ペーパーバックの月刊絵本「こどものとも」を創刊し、児童書分野への進出を果たしました。金沢福音館に入社したとき、編集という仕事を印刷所の職人さんから見よう見まねで教えてもらい、覚えていった松居 直氏は、入社から５年後には「こどものとも」第１号を発刊し、1968年８月の第149号まで11年間、編集者として毎月一冊全149冊の絵本を発行し続けたのです[5]。

松居氏編集の149冊について、児童文学評論家の藤本朝巳氏は「松居氏の知見と、登場する作家・画家たちとの交流は時代と出版物を研究対象とする書誌学的に見ても、さらに文化史としてみても非常に興味深い歴史的事実です」と述べています[5]。

何といっても、今では著名な絵本作家を、無名時代から発掘したのも松居 直氏なのです。田島征三氏、安野光雅氏、堀内誠一氏、長 新太氏、寺村輝夫氏など、今でこそ大御所の絵本作家を「こどものとも」から生み出したのは、編集職人「松居 直」その人です[5]。

「こどものとも」149号を発刊した後は、編集を後進に任せて、他の企画を推進し、また福音館書店の社長として経営に携わりました。



発行年は何年でしょうか？

『セロひきのゴーシュ』宮沢賢治 原作
　佐藤義美 案、茂田井 武 画（「こどものとも」2号）
『三びきやぎのがらがらどん』北欧民話（同38号）
　瀬田貞二 訳、池田龍雄 画
『やまなしもぎ』日本民話（同42号）
　平野 直 案、佐藤忠良 画
『おだんごぱん』ロシア民話（同47号）
　瀬田貞二 訳、井上洋介 画
『ぴかくんめをまわす』（同49号）
　松居 直 作、馬場のぼる 画
『三びきのこぶた』イギリス昔話（同50号）
　瀬田貞二 文、山田三郎 画

『セロひきのゴーシュ』
宮沢賢治 作
茂田井 武 画
（福音館書店）

これらは、月刊絵本「こどものとも」第１号から第50号で誕生した作品です。発行年では1956年から1960年の絵本ですが、2020年代に入った現代でも生き生きと語られ、楽しまれているお話ばかりです。続けるならば、1963年の93号で『ぐりとぐら』が登場するのです。このラインナップだけで、文と絵が補完しあった優れたお話は、時代に関係なく子どもたちを虜にすることが一目瞭然です。

藤本朝巳氏は、著書『松居直と絵本づくり』の中で「初期50冊の取り組みは、松居氏が「こどものとも」発刊に至るまでに真剣に考えた方針に外れることなく、またその目標を達成するために大変な努力をした時期であった」と述べています。すなわち、「「岩波の子どもの本」シリーズが紹介した欧米の絵本水準の高さまで持っていくこと、日本でも創作の本格的な楽しい物語絵本を作り出さねばならないということ」を達成するために努力を惜しまなかったのです[5)]。

松居氏が「母の友」を創刊した頃に感じていた、当時の子ども向けとして出されていた作品の多くが、「何かを教え伝えようという姿勢が強く、幼児向けになっていない」点を改善し、「こどものとも」のねらいのひとつとした「幼児を雑然としたモノシリにするよりも、人間としての骨組をつくる絵本」を体現していくのです[5)]。

編集者として自らに課題を課し、愚直に実現していった職人魂が見て取れます。福音館書店が児童書出版の大手として君臨し、読者が安心してその出版物を手に取れる理由がすべて、松居 直氏の仕事にあるのだと気付かされるのです。

型をなくした絵本の判型

見よう見まねで編集者としての仕事を獲得し、その手腕をみるみる広げていった松居氏の最初の功績は、絵本の判型にあります。福音館書店創立当時の絵本は、左から右にめくる右開きで、縦書きの文章を上から下に読む体裁が基本でした。

それを今では当たり前となった横長で横書きの絵本を生み出したのも松居氏なのです。きっかけは、編集職人「松居 直」初期の頃に手掛けた『100まんびきのねこ』まで遡ります。海外の絵本の翻訳に取り組んでいたところ、日本にはない横長・横書きの体裁に苦戦するのです。

『100まんびきのねこ』
ワンダ・ガアグ 文・絵
いしいももこ 訳
（福音館書店）

日本語訳版を縦書きに変えると、本をめくる方向も左右が逆になってしまい、それでは絵と文章があわなくなってしまうと考えた松居氏は、横書きのままで翻訳絵本を出版するのです。こうして生まれた日本初の横長絵本は、当初、各方面で不評を買います。

学校の先生に「国語の教科書は縦書きなのに、絵本

ビブリオベイビー Bibli Baby

連絡先　福岡市南区大橋 3-2-1 2F
絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ
TEL 092-557-3272　URL http://bibliokids.jp

E-mail
安藤：bibliokids.baby1@gmail.com
濱野：hamano@genkigawaku.com
木須：nobuokisu@gmail.com

を横書きにするとは何ごとか」と指摘され、本屋さんからは「横長の本は棚に入らなくて困る」と苦情を受けたと明かしています[6]。今では絵本の通常規格となっている横長の判型は、松居氏によるものなのです。

絵が動き出すとき

横長の翻訳絵本『100まんびきのねこ』を出版した松居氏のチャレンジは加速していきます。「こどものとも」も横書きで出版してみようと思いつくわけです。なぜなら、「日本の絵描きさんの弱点のひとつは絵が動かないということ。わりあいその画面できちっとまとまってしまうことを考えると、横にすればいやでも絵を動かさなければならないだろうと、編集者としてはそういう魂胆があった」と、藤本氏の取材に応じています[5]。

縦書き文化を払拭して、1961年に生まれたのが横書き、横長の絵本『とらっく とらっく とらっく』です。東京オリンピック1964に向かって日本が高度成長を進めていた時代に松居氏が取り組んだ斬新な発想が、動きのある絵本の原点なのです。

『とらっく とらっく とらっく』
渡辺茂男 作　山本忠敬 絵
（福音館書店）

他にも、

『おおきなかぶ』
　アレクセイ・ニコラエヴィッチ・トルストイ 再話、
　内田莉莎子 訳、佐藤忠良 画

『かわ』
　加古里子 作・画

『かわ』
加古里子 作・絵
（福音館書店）

『はじめてのおつかい』
　筒井頼子 作、林 明子 絵

『ぐりとぐら』
　中川李枝子 文、山脇百合子 絵

どれをとっても横長だからこそ、絵に動きがあることがよくわかります。

祝10周年　と　祝70周年

2022年、私たちビブリオキッズは、お陰様で創館10周年を迎えました。ビブリオキッズが創館した2012年、福音館書店は創立60周年の記念年にありました。

そして今年、誰もがお世話になっている福音館書店は創立70周年を迎えています。松居 直氏や松居氏の義父らによって1952年２月１日に創立されてから今日まで、日本の児童出版界をけん引してきた福音館書店から生まれた絵本の数々は、戦後から、昭和後半、平成、令和と色あせることなく子どもたちを主役にしてくれているのです。

創立70周年を祝う福音館書店のホームページに、「『福音館』と聞いたときに思い浮かべる作品は、人によって全く違うかもしれません」とあります[7]。

皆さまの「福音館」は何でしょうか。皆さまの歯科医院での「福音館」はどの絵本でしょうか。

文献

1）ウクライナ侵攻 分析版：ゼレンスキー大統領、世界に向けた魂の演説集, 扶桑社, 東京, p.13-21, 2022.
2）松居直：松居直自伝－軍国少年から児童文学の世界へ（シリーズ・松居 直の世界1）, ミネルヴァ書房, 京都, 282p, 2012.
3）松居 直：絵本のよろこび, NHK出版, 東京, p.232-238, 2003.
4）松居 直：松居 直と『こどものとも』（シリーズ・松居 直の世界2）, ミネルヴァ書房, 京都, p.209-212, 2013.
5）藤本朝巳：松居 直と絵本づくり, 教文館, 東京, p.12-31. 2017.
6）松居 直：絵本が子供に生きる力を与える（絵本をめぐる世界 第1回）, こくみん共済「あんしんのタネ」2009年２月号, こくみん共済coop HP https://www.zenrosai.coop
7）福音館書店：子どもたちといっしょに70年。, 福音館書店70周年特設サイト https://www.fukuinkan.co.jp/70th/